

国際結婚で思うこと

紹介者



奥村 晃三氏

大日本インキ化学工業 相談役



出原 洋三氏

日本板硝子 取締役会長



次回は

高橋 温氏

(住友信託銀行 取締役会長)
にご登場いただきます。

私の親しくしている英会話の先生3人が、3人とも日本人と結婚していると聞いて、日本人との国際結婚はうまくいっているのだろうかと他人事ながら心配になった。こんなことまで心配するのは、最近少子化が話題になるにつれ、少子化と大きな相関関係がある結婚の実態に関心を持ち始めたからに他ならない。

日本における結婚の実態を見ると、結婚数は一昨年の6月から下げ止まっている。まさにご同慶の至りである。しかし、結婚年齢は毎年着実に晩婚化が進んでおり、昨年までの50年間にちょうど5年結婚年齢が延びて、男性で30歳、女性で28歳になっている。さる人が結婚生活における年齢別キーワードとして、20歳代は「愛情」、30歳代が「葛藤」、40歳代が「忍耐」、50歳代が「諦観」、60歳代が「譲歩」、70歳代は「友愛」などと言ったが、これも5歳くらい、ずらさないと当てはまらないかもしれない。

いずれにしても、このキーワードが物語るように結婚生活は確かに複雑な要素を持っている。だから、文化、伝統、習慣の異なる者同士が結婚する国際結婚は、日本人同士の結婚よりはるかに難しい側面を持っていると思われる。離婚率も日本人

同士の場合で既に38%になっているが、一方が外国人である国際結婚はやはり43%と5%高い。しかし、国際結婚の場合は国別に様々な組み合わせがあり、それによって事情もかなり違ってくることを考慮に入れると、べらぼうに高いとは思われない。

イギリス人の英会話の先生は既に日本人女性と結婚して9年が経過しているというが、今では日本に永住し、添い遂げたいと言っている。彼はロンドンで奥さんと知り合い、結婚したいと東京まで追いかけてきたケースである。何故、そこまでして日本女性を選んだのかと聞くと、日本女性はイギリス人女性に比べ、はるかに夫にやさしく、献身的だという。イギリス人の女性と比べる限り、昔の日本女性の特性であったこのような美点が、まだ、このごろの若い日本女性にも残っているようだ。

団塊の世代が一斉に定年を迎えるにあたり、定年離婚に怯える人も多いという話を聞く。そうなるに国際結婚の成り行きを心配するより、日本人を女房に持つ我々は、イギリス人女性よりはやさしく献身的だというわが女房を、国際的な観点から再認識し、サービスにこれ努めることが肝要かもしれない。